

バスケットの街づくりに関する意見・提言一覧

【基礎資料4】

No.	提案件名	1. 現状（今はこうなので）	2. 提案内容（こうすることにより）	3. 効果（このような効果がある）	4. 備考（関連する事項など）
1	底辺拡大	能代工業のバスケット部は頭を丸め、試合では一生懸命な姿が伝わり、頑張っている。しかし全国にはセネガル人がいて、なかなか勝てなくなっている。また、バスケットをしている人数も少なくなっている。特に底辺として必要な小学生のミニバスをしている人数も少ないと以前から思っていた。	とにかくバスケット人口が、他の種目よりも多いことが必要である。（バスケットの街とするならば）。小学生が行うミニバスをもっと多くの団体、地域で行うことがポイントになると思う。また、公園等いろいろな所をもっとバスケットのリングをつけることもおもしろいと思う。	小学生のバスケット人口が増えれば、将来、中学、高校、社会人でバスケットをする人数も増えるという効果が生まれるだろう。町中にバスケットのリングがあれば、それだけでも違うのかもしれない。	
2		何かに特化して行う事は悪い事ではないが、幅広くスポーツを活性化させるべきだと思います。市の歴史で「木都」と呼ばれながら、現状では、木材分野が厳しい現状にあるように。単一種目だけではなく多くのスポーツをする環境を考えていくべきです。 （例：アリナス等で多くの方が様々な形でスポーツを捉えています。）	単純に「バスケットの街づくり」をやめればよい。	バスケットに画一化された考え方より、幅広くスポーツを考えた方が人材、施設、設備の活用に効果があると思う。幼少期に様々なスポーツを体験させることで、子供の身体能力の向上が考えられる。（かたよった能力になりにくい。）	基本はマーケティング。
3	選手の宿泊について	能代市内は、大きな体育館はあるが、ホテルや旅館が少ないと思います。森岳や八郎潟には温泉旅館があるのですが、市内まで遠すぎます。	宿泊設備が少ないので、大きな大会を誘致できないということはないのですが、バスやタクシーの運行を工夫すれば、宿泊所が遠くても、選手に不便をかけることなく、移動できると思います。例えば、チームごとに貸切のバス、タクシーにするなど。（応援客も含めて）	県内外から、たくさんの客を集めることができ、その人たちが、毎度訪れることを期待でき、経済的に有効と考えます。	新規の宿泊設備を建築するより、交通手段を考えたら良いと思います。
4	能代市民、セネガル化計画	「能代カップ」などのイベントにより、「バスケットの街」としての取り組みは素晴らしいと思う。しかし、他県私学が外国人選手を起用するのが当たり前になり、能代工業が全国で勝てないのは少し寂しい気もする。 やはり能代工業には勝ってほしい。	①セネガル人労働施設の設立 ②国際結婚奨励金 ③子育て支援（子どもの身長に応じて補助金アップ） ④幼少期からの育成システムの構築	セネガルの遺伝子を持つ子を大きく育て、技術と精神を教え込む。	
5			・ノーザンハピネットの試合を能代で多く開催してもらおう。 ・ノーザンハピネットとの交流の機会を作る。 ・ストラップ等グッズを作製する。 ・能代カップ等のチケットを購入したら、何らかの特典を与える。 ・田臥や能代工業OBの監督（アイシ他）を呼び、交流の機会を作る。 ・能代工業バスケットを復活させる。		

No.	提案件名	1. 現状（今はこうなので）	2. 提案内容（こうすることにより）	3. 効果（このような効果がある）	4. 備考（関連する事項など）
6		<p>全国で活躍している能代のバスケットボールが高校バスケットのみであるにもかかわらず、「バスケの街」というコンセプト設定をしながらも、時代の流れや選手層の影響等、経済的な感覚や先見性等を調べるマーケティング活動を行わず、行き当たりばったりという感覚でやってきている。</p> <p>このような取り組みは利益が出ている時は良いが、状況が悪くなると運営自体ができなくなるという側面をもち、立ちゆかなくなるケースとなることが多い。また、高校生にその責任を負わせ、経済活動を活性化させようとしている。</p> <p>また、ハピネットの本拠地が秋田市にあり、「バスケの街能代」の存在意義が弱くなっている。「バスケの街」を復活させることは非常に難しい。</p>	<p>・能代市が「バスケの街」として活動していくためには、バスケットボールを特別扱いすることである。日本のスポーツの代表格である野球よりも優遇する政策をとることである。行政がバックアップをすることにより、「野球よりバスケットボールをやった方が優遇される」という感覚を持たせることである。つまり、サッカー王国清水（静岡）の秋田県版である。しかしながら、利権争いが多いこの能代市では、難しいかもしれない。</p> <p>・上記内容に付随するが、ジュニアの育成である。競技者の減少は、競技力の低下を促す。ジュニアを優遇する制度を確立し、小・中学校においても能代市の選手が全国で上位を占めるようなチーム作りをしなければならぬ。</p> <p>・イベントの開催である。</p> <p>10数年前、畠街商店街でスリーオンスリー大会が開催されていた時期があった。このようなイベントを実施し、地域住民に「バスケの街」である事を理解してもらおうような政策を打ち出さなければならぬと考える。</p>	<p>※左記の続き</p> <p>・リーダー育成とリーダーの確固たる支援・応援である。</p> <p>現在の日本における社会情勢は「責任を取らずに利益を得たい」・「楽をしながら利益を得たい」・「何もせずに利益がほしい」という雰囲気のみられるとともに、「人のあら探しをして、集団でいじめめる」傾向が非常に強い。「危ない橋」は誰も渡りたくはない。実際にこの「バスケの街」づくりは、責任を取らせられる問題であり、危険な橋である。</p> <p>もし、「バスケの街」を再建するのであれば、リーダーに対して保障を確約しないと誰もやろうとしない。（ジュニア育成における小・中・高校の指導者に対しても保障をするべきである。他のスポーツでもあることだが、失敗したり、社会的制裁を受ける可能性がある危険なスポーツであると分かっているのに、その保障をもせずにやらせていたりする任命権者や地域の住民の感覚は理解しがたい。）</p>	
7	道の駅を「バスケのまち能代」の入り口に	<p>・現在、新たな道の駅の設置が検討されている。</p> <p>・「バスケのまち能代」の対外的なPRの強化が必要。</p>	<p>・「バスケのまち能代」を前面に出した道の駅の整備。</p> <p>→道の駅に、バスケットボールコートを整備。</p> <p>→ストリートバスケットボールの大会などを開催。</p> <p>→市内バスケットボール関連商品の販売、新商品の開発 等。</p> <p>※バスケット関連商品だけ置くのではなくコーナーの設置。</p>	<p>・「バスケのまち能代」としてのインパクト。</p> <p>・外から人を呼び込み機会が増える。能代をPRする機会が増える。</p> <p>・バスケットボール大会等を開催するにあたり駐車場に困らない。</p> <p>・大会参加者及び観客が、試合の合間に特産品等をお土産として買いやすい。</p> <p>・街の中、観光地に人を引き込む手が打てる。</p> <p>・複数日の大会開催で滞在型観光に繋げる。</p>	
8	ミニバス指導者の件	各団体で指導者を探しお願いしているが、1年で辞められることが多々あり、毎年苦労している。	行政が指導できる方をリスト化する。	団体が指導者がいない場合、紹介してももらえる。	月に1回程度、合同練習会を開催し、全体のレベルアップを図ったらどうか。
9	中学校のバスケットボール部員の増加のために	中学校のバスケットボール部の入部者数が少ない。	小学校に、工業やハピネットの選手に来てもらう。	小学生のバスケットへの興味・関心が生まれ、バスケットをより身近に感じることができ、部員数が増える。	

No.	提案件名	1. 現状（今はこうなので）	2. 提案内容（こうすることにより）	3. 効果（このような効果がある）	4. 備考（関連する事項など）
10	もっと全体的なレベルアップをする	今は、1つのチームに良いコーチやミニバス経験者が集中している。	小学校のチームを増やしたり、人材の育成を図ることで、全体の成長を促す。いろいろな所からコーチや実業団を招き、交流クリニックをする。	・バスケットに関わる人が増え、能代の知名度も上がる。 ・幼い子供たちとの交流でより地域になじみ深くなる。 ・バスケットの実力も上がり、もっと全国レベルで活躍できるようになる。	
11	ノーザンハピネットの知名度の向上および交流会の開設	秋田県民が1つになってノーザンハピネットを応援しきれていない。	・選手との交流会の開設。 ・月に一度、新聞にノーザンハピネット特集を載せる。	県民との交流が深まり、知名度も同時に上げることができるため、ブースターの数が増える。	
12	(目的) ・地元バスケット少年たちの技術向上 ・バスケットを基盤とした能代の活性化	はじめに…能代のバスケット=工業だったり、田臥勇太というイメージが強い。 ①能代カップの表彰式に「田臥」が来ていたのに、ここ数年来てくれない…。 ②ハピネットもたまにやるが「バスケットの街・能代」という割に、プロ集団による試合が少ない。(小・中学生が高い技術を見れない=習得できない) ③能代工業のグッズを売っている店が少なすぎる。(キクヒロにしかないのではないか…)	市から田臥に相談する。バスケットが強い地域と能代のバスケット環境がどう違うのか、現状とバスケット界のことを知る必要がある。 ①市として、田臥勇太との関係性を密にすることにより… ↑ ②田臥が所属するリンク栃木といったプロのバスケット集団に能代で試合をしてもらうように呼びかける。(交渉) ③グッズをたくさん販売する。(キクヒロ以外の店に置いてもらえるようにする。柳町だけでなく、東能代・二ツ井方面にできるだけ多く)	①田臥を一目見たいという人もいると思うので、客が集まる=地方から能代に人が集まるのではないかと。田臥がきっかけで、バスケットに興味を持ち始めたり、バスケットを始める子どもたちが増えると思う。 ②田臥が所属するリンク栃木などのプロチームが試合することにより、小・中学生がプロの技術を間近で見れるワケだからレベル向上につながると思う。また、プロ選手による講演会を開くことも可能なのでは…！？ 対戦相手が能代に来て、宿泊する可能性もあるワケだから、多少の経済効果を期待できるのではないかと！？ ③ジャスコ・アクロスなどに能代工業グッズを置いてもらうことにより、バスケットの街を広めることができる。	・能代にいるデザイナー(能代出身の全国にいる木材職人・服飾など)に、木材を少しでも使ったバスケットに関する日用雑貨(ペン立て・リングの形をしたゴミ箱)などデザインしてもらい、コンペを行う。(より質の高いものを作るため) ・ウィンタースポーツということで、地元の婦人会などに、きりたんぼ・志んこなどの出店を用意してもらい、能代の郷土料理(セキト・たきや)を知ってもらう(特産品のPR) バスケットシューズ(ボール)に能代限定モデルを作ってみるとか…。(宣伝)
13	韓国等の東南アジア高校生No.1チームを加えたアジアカップ	・能代カップは、国内強豪チームだけの大会であるが、地域振興度が小さい。 ・これからは、観光客の誘致も世界規模で考える必要があると思うが、能代・山本はその取り組みが少ない。	・能代カップをアジアカップにして、韓国や台湾等の高校生No.1チームを招待する。 ・とりあえずは、韓国高校No.1チームを加える。	・海外からの観光客誘致のきっかけとなる。 ・韓国はアジアの中では強豪チームなので、競技力向上のヒントが得られる。	・能代の花火大会やおなごりフェスティバルなどに外国人観光客の増加が見込める。 ・能代・山本地域の市民の国際感覚を醸成することができる。 ・秋田県等の助成が期待できる。 ・国際交流が活発化する。

※ 意見・提言は、受付順となっています。

【募集時期】平成23年1月

【募集対象】市民

【募集方法】広報紙・ホームページへの掲載、市庁舎・各地域センター・各体育館への募集用紙の設置、ミニバス関係者・各中学校・各高等学校への周知